

「明治150年」関連施策

明治時代の 生命保険事業について



一般社団法人

生命保険協会



明治時代の生命保険事業について

はじめに

平成30年（2018年）は、明治元年（1868年）から起算して満150年の年に当たります。明治時代は、我が国の数多くの生命保険会社が誕生した門出の時代であり、明治150年の節目となる年に、当時の生命保険業界の状況について振り返るため、当協会では、「明治150年」関連施策として、本資料を作成いたしました。

平成30年（2018年）1月1日
一般社団法人 生命保険協会

明治時代の生命保険事業について

<目次>

Q 1	いつ誰が、生命保険を日本に初めて紹介したの？	．．．．	4
Q 2	日本で初めて設立された生命保険会社は？	．．．．	5
Q 3	明治時代には他にどんな生命保険会社が設立されたの？	．．．．	6
Q 4	明治時代の生命保険市場の状況は？	．．．．	7
Q 5	生命保険会社はどのように生命保険を販売していたの？	．．．．	8
Q 6	どのような種類の生命保険が人気があったの？	．．．．	9
Q 7	どのような人が生命保険に加入していたの？	．．．．	1 0
Q 8	初めて生命保険が活用されたのは？	．．．．	1 1
Q 9	明治時代に生命保険業界に起きた主な出来事は？	．．．．	1 2
Q 10	明治時代の生命保険業界に貢献した人は？	．．．．	1 3
Q 11	生命保険協会はいつ設立されたの？	．．．．	1 4

Q1 いつ誰が、生命保険を日本に初めて紹介したの？

4

A1 慶應3年（1867年）、^{ふくざわ ゆきち}福澤諭吉が発表した「西洋旅案内」で生命保険を日本に初めて紹介しました。

慶應3年（1867年）、福澤諭吉が発表した「西洋旅案内」（欧米に旅行する人向けの手引書）において、近代的な生命保険を日本に初めて紹介しました。保険は「**災難請合の事 イシュアランス**」、生命保険は「**人の生涯を請合う事**」として紹介されています。なお、保険は、当初は「請合」という言葉で表現されていましたが、その後、「保険」という用語が広く使用されるようになりました。

災難請合の事 イシュアランス

災難請合とは商人の組合ありて平成無事の時に人より割合の金を取り、万一其人へ災難あれば組合より大金を出して其損亡を救う仕法なり其大趣意は、一人の災難を大勢に分かち僅かの金を棄て大難を遁るる訳にて...（略）**人の生涯を請合ふ事**此法は甚だ入組たることなり素人同士を結て若し組合の内に病氣其外災難に逢ふ者あれば組合一統より金を出し合せてこれを救ひ又は死後に其妻子を扶助することあり...（略）



福澤諭吉肖像
(国立国会図書館ウェブサイトより)

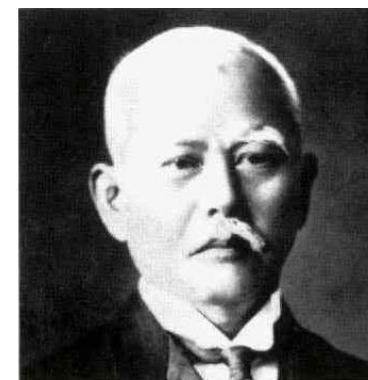
Q2 日本で初めて設立された生命保険会社は？

A2 明治14年（1881年）に設立された明治生命です。

明治生命の設立

明治12年（1879年）末、福澤諭吉の門下生である^{しょうだへい}莊田平^{ごろう こいずみのぶきち}五郎と小泉信吉の話し合いをきっかけに、保険数理に基づく近代的生命保険会社設立に向けた具体的な動きが始まり、明治13年（1880年）6月には、「東京生命保険会社創起見込書」が起草されました。その後、福澤諭吉の門下生である^{あべ}阿部^{たいぞう}泰蔵を中心に会社設立の準備が進められ、明治14年（1881年）6月、「有限明治生命保険会社」に社名を改め、東京府知事に設立願書が提出されました。本願書の認可後、同年7月9日から、明治生命は、以下のとおり、保険数理に基づく近代的生命保険会社として日本で初めて営業を開始しました。

- ・ 生命保険の種類は、利益分配無の「尋常（終身払）終身保険」「有限掛金終身保険」「定期保険」「養老保険」「子女教育資保険」で、「尋常終身保険」のみ利益分配付きも販売
- ・ 死亡率に関する統計が未整備であったため、基礎生命表は「英国17会社表」を使用
- ・ 金利水準は10%以上であったが、事業の安定化を目的として、予定利率は4%に設定



生命保険協会初代会長時の
阿部泰蔵肖像
(生命保険協会百年史より)



明治生命（当時）外観
(国立国会図書館ウェブサイトより)

Q3 明治時代には他にどんな生命保険会社が設立されたの？⁶

A3 下表のとおり、現在まで残る多くの生命保険会社が設立され、明治43年（1910年）の会社数は29社でした。



日本生命（当時）
外観

明治時代に設立された主な保険会社

設立年	会社名
明治14年（1881年）	明治生命（現 明治安田生命）
明治21年（1888年）	帝国生命（現 朝日生命）
明治22年（1889年）	日本生命
明治26年（1893年）	名古屋生命（現 太陽生命）
明治27年（1894年）	共済生命（現 明治安田生命）
明治35年（1902年）	大同生命
〃	第一生命
明治37年（1904年）	千代田生命（現 ジブラルタ生命）
明治40年（1907年）	日之出生命（現 住友生命）

（国立国会図書館ウェブサイトより）

明治時代創業企業売上高ランキング（2016年）

順位	会社名（2016年時）	創業年
1	日本生命保険	明治22年
2	JXエネルギー	明治21年
3	第一生命保険	明治35年
4	明治安田生命保険	明治14年
5	三井物産	明治9年
6	住友生命保険	明治40年
7	新日鐵住金	明治34年
8	日本郵便	明治4年
9	東芝	明治8年
10	出光興産	明治44年

（データ提供：（株）東京商工リサーチ）

Q4 明治時代の生命保険市場の状況は？

A4 明治43年（1910年）時点で、生命保険会社全体の保有契約は約130万件、保有金額は約5億5600万円でした。

明治時代の生命保険会社の業績

	会社数 (社)	新契約		保有契約		収入保険料 (千円)	支払保険金 (千円)	総資産 (千円)
		件数 (千件)	金額 (百万円)	件数 (千件)	金額 (百万円)			
明治14年 (1881年)	1	1	0	1	0	10	—	—
明治23年 (1890年)	4	12	3	23	9	288	—	—
明治33年 (1900年)	43	231	58	803	195	7,047	1,948	—
明治43年 (1910年)	29	271	149	1,301	556	21,741	5,619	72,709
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
平成28年 (2016年)	41	0.2億件	79兆円	1.8億件	970兆円	33兆円	19兆円	375兆円

※新契約、保有契約は個人保険・個人年金の数値

【出所】『生命保険実講座第6巻 業史・外国事情編』有斐閣、生命保険協会ウェブサイト

○明治時代の「1円」の価値を当時の物価（現在の物価は明治30年頃の物価の約3800倍）や賃金（小学校教員・お巡りさんの初任給は月8～9円、一人前の大工さんや工場のベテラン技術者は月約20円）から試算すると、当時の1円は現在の2万円（当時の1銭は現在の200円）ぐらいであると想像できます。これを前提とすると、当時のあんぱん1個1銭は現在では約200円、当時のうどん・そば1杯2銭は現在では約400円、当時のビール大瓶1本19銭は現在では約3,800円となります。

【出所】野村ホールディングス・日本経済新聞社ウェブサイト「man@bow経済」より作成

Q5 生命保険会社はどのように生命保険を販売していたの？⁸

A5 生命保険の知識が社会に広く浸透していなかったため、啓蒙活動を行いながら代理店を中心に販売しました。

当時は、生命保険の知識が社会に広く浸透していなかったため。生命保険会社は生命保険について啓蒙を行いながら販売を行うことが必要でした。生命保険会社は、地主、実業家、銀行等の地方の名士に生命保険の必要性を説明し、代理店になってもらい、生命保険を販売しました。

コラム ～夏目漱石と生命保険～

「叔父さんは保険が嫌いでしょう。女学生と保険とどっちが嫌なの？」
「保険は嫌ではない。あれは必要なものだ。未来の考えのあるものは、誰でも這入る。女学生は無用の長物だ」
「無用の長物でもいい事よ。保険へ這入ってもいい癖に」
「来月から這入る積だ」
「きっと？」 「きっとだとも」
「およしなさいよ、保険なんか。それよりかその懸金で何か買ったほうがいいわ。ねえ、叔母さん」
叔母さんはにやにや笑っている。
主人は真面目になって
「お前などは百も二百も生きる気だから、そんな呑気な事を云うのだが、もう少し理性が発達してみろ、保険の必要を感ずるに至るのは当前だ。是非来月から這入るんだ」



夏目漱石肖像
(国立国会図書館ウェブサイトより)

(出所) 「吾輩は猫である」 夏目漱石著 (青空文庫)

Q 6 どのような種類の生命保険が人気があったの？

A 6 当初は終身保険が人気がありましたが、徐々に養老保険にシフトしていきました。

人気のあった生命保険の種類

明治時代の生命保険会社は、終身保険、養老保険、定期保険、教育保険などの商品を販売していました。明治時代の当初は、新契約の件数ベース（右記参照）で見ると、**終身保険**が大半を占めていましたが、その後、**養老保険**が増加し、明治時代の末期には、養老保険が大半を占めるようになりました。これは、当時の人々が次のような考え方であったためであると言われています。

	終身保険		養老保険
明治14年 (1881年)	618件 (97%)	>	22件 (3%)
明治20年 (1887年)	1,009件 (96%)	>	47件 (4%)
明治25年 (1892年)	7,767件 (78%)	>	2,252件 (22%)
明治30年 (1897年)	4.3万件 (44%)	<	5.4万件 (56%)
明治35年 (1902年)	4.2万件 (47%)	<	4.8万件 (53%)
明治40年 (1907年)	4.3万件 (24%)	<	13.7万件 (76%)
明治44年 (1911年)	4.8万件 (17%)	<	23.2万件 (83%)

- ① 家族制度や家業の世襲制を中心とする生活保障制度や封建的な慣習やものの考え方が強く残っており、独立した近代市民としての生活と思想が確立されていなかったこと
- ② 死に対する因習縁起が残っており、死亡保障について割り切った考え方が持ちにくかったこと
- ③ 伝統的に貯蓄思想が強かったこと

Q7 どのような人が生命保険に加入していたの？

A7 生命保険の販売当初は、銀行会社員、商人、官吏（公務員）が中心に加入していました。

生命保険に加入した人の属性

生命保険が販売された当初は、生命保険の加入者は、職業別に見ると、**銀行会社員、商人、官吏（公務員）**の3つの職業で約7割を占めており、無職も約1割となっていました。

【職業別の契約者数（明治生命）】

官吏	海軍々人	警察官	郡吏	教職員	学士	学生	医者	教員
2 5 8	1 0	1 5	3 1	1 0	1 1	1 1	7 5	7 7
海員	新聞記者	銀行会社員	商人	農民	職人	その他	無職	合計
1 1 2	2 2	7 2 0	5 5 9	3 8	4 6	8 2	2 2 2	2, 2 9 9

※明治生命「第4回生命保険一覧表」（明治17年7月10日～明治18年7月9日までの一年間）より作成

Q 8 初めて生命保険が活用されたのは？

A 8 初めて保険金が支払われたのは明治15年。生命保険の受取人第1号が現れたことが報じられた1月31日は「生命保険の日※」に制定されています。

日本で初めて生命保険に加入した人

日本で初めて生命保険に加入したのは、著名な科学者であるうつのみやさぶろう宇都宮三郎です。保険金2,000円の明治生命の尋常終身保険に加入申込みを行い、明治14年（1881年）7月18日、生命保険証券が発行されました。宇都宮三郎は、数年後、大病になり保険料が支払えないことを理由に解約を申し出ましたが、福澤諭吉が代わりに保険料を支払い契約を継続したと言われています。

日本で初めて保険金が支払われた人

明治15年（1882年）1月27日、当時、神奈川県警部長であったかわいきゅうちょう川井久徴の死亡に伴い、日本で初めて保険金（1,000円）が支払われました。川井久徴は、明治14年（1881年）8月8日に明治生命の尋常終身保険に加入しましたが、保険料を支払ったのは1回だけでした。明治15年（1882年）1月31日発行の新聞では、本件について報道されました。

※MDRT日本会により制定

MDRT (Million Dollar Round Table) は1927年に発足した、世界69の国と地域の500社以上で活躍する、62,000名以上（2017年7月現在）の会員を有する、卓越した生命保険と金融サービスの専門家による国際的組織です。

Q9 明治時代に生命保険業界に起きた主な出来事は？

A9 保険契約や保険監督に関する法律が制定されました。

保険契約法や保険業法の制定

保険契約および保険監督について規定した**商法**が、明治23年（1890年）に公布され、明治31年（1898年）7月に施行されました。その後、**新商法**が明治32年（1899年）3月に公布され6月に施行されましたが、保険監督に関する規定は、新商法からは除かれ商法施行法により定められました。明治33年（1900年）3月、保険監督の特別法である**保険業法**が公布され7月に施行されたことから、商法施行法は廃止されました。保険業法は、ドイツの保険監督法を参考に策定されましたが、主な特徴は以下のとおりです。

- ・ 保険事業の免許主義を採用
- ・ 株式会社の他に相互会社に関する規定を新設
- ・ 生命保険業と損害保険業の兼営禁止を規定
- ・ 普通保険約款の記載事項を明示
- ・ 保険会社検査の実施



帝国議会議事堂外観
(国立国会図書館ウェブサイトより)

Q10 明治時代の生命保険業界に貢献した人は？

A10 生命保険を日本に初めて紹介した福沢諭吉のほか、官民両方において日本の生命保険業界で活躍した矢野恒太がいます。

矢野恒太

矢野恒太は、日本生命、共済生命（現 明治安田生命）、第一生命において活躍するとともに、農商務省・初代保険課長を務め、また、保険業法を起草する等、官民両方において日本の生命保険業界に貢献しました。



生命保険協会第3代会長時の
矢野恒太肖像
(生命保険協会百年史より)

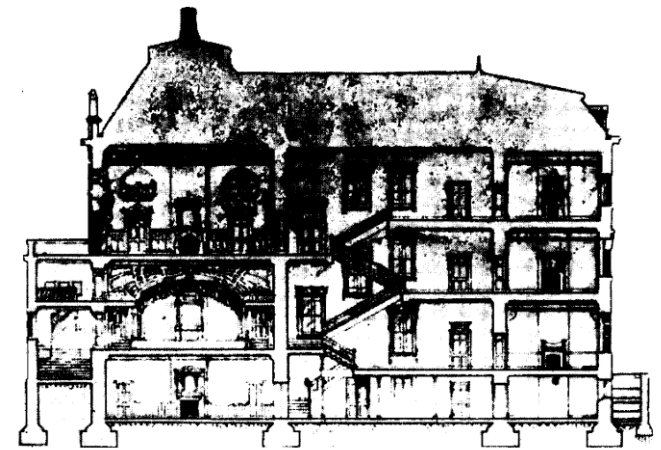
時期	矢野恒太に関する出来事
明治22年（1889年）	日本生命に入社し診査医を務める
明治27年（1894年）	共済五百名社を改組した共済生命(現 明治安田生命)を設計し支配人に就任
明治31年（1898年）	農商務省に入り、保険業法の起草に参加
明治32年（1899年）	日本アクチュアリー会創設に尽力し幹事を務める
明治33年（1900年）	農商務省商工局保険課新設に伴い初代保険課長となる
明治35年（1902年）	日本初の相互会社である第一生命を設立し専務取締役を務める
明治37年（1904年）	伊藤博文に生命保険の社会と国民経済に及ぼす影響について意見書を提出
大正12年（1923年）	生命保険協会第3代会長を務める
昭和2年（1927年）	商工省より生命保険標準死亡表作成に関する事務を囑託される

Q11 生命保険協会はいつ設立されたの？

A11 生命保険協会は明治41年（1908年）に設立されました。

明治31年（1898年）7月に施行された商法の改正が施行前から検討されていたことから、生命保険業界の意見を取りまとめ提出する必要があるとの認識のもと、明治31年（1898年）5月18日、生命保険会社22社が集まり、「**生命保険会社談話会**」を設立しました。本談話会では、各生命保険会社の参考とすべく強制力をもたない模範約款を作成しました。

その後、明治38年（1905年）3月27日には、本談話会が廃止され業界団体組織としての「**生命保険会社協会**」（法人格のない任意団体）が設立され、明治41年（1908年）12月7日には、社団法人化した「**生命保険会社協会**」が設立されました。明治150年に当たる2018年の12月には、生命保険協会設立110周年を迎えます。



大正元年（1912年）に
完成した生命保険会館



現在、生命保険協会が入居
している新国際ビル

おわりに

明治時代初期に歩み始めた生命保険事業は、社会公共の福祉の増進に貢献するという使命のもと、日本経済の発展とともに着実に成長し、国民生活の向上を支えてまいりました。現在では年間約20兆円の保険金や給付金等をお支払いするなど、生命保険事業は社会保障制度の一翼を担うまで発展を遂げ、公的保障を補完する重要な役割を果たしております。超高齢社会が到来する中、社会保障制度の持続可能性を高めるため、自助努力としての私的保障を提供する生命保険事業の役割はますます大きくなっておりませんが、生命保険業界は、安心して健康に暮らすことができる社会の実現に向けて引き続き取り組んでまいります。

参考文献

- 宇佐見憲治（１９６７）「日本生命保険業発達史」『新生命保険実務講座第１０巻 業史・資料』有斐閣
- 駒崎信次・中沢弦男（１９５８）「我が国生命保険事業史」『生命保険実講座第６巻 業史・外国事情編』有斐閣
- 慶應義塾保険学会（２０１６）「特集 展示企画「福澤諭吉と日本の保険業」」『保険研究第６９集』
- 国立国会図書館ウェブサイト
- 生命保険会社協会（１９３４）『明治大正保険史料』
- 生命保険協会（２００９）『生命保険協会百年史』
- 生命保険協会ウェブサイト
- 東京商工リサーチウェブサイト
- 夏目漱石『吾輩は猫である』（青空文庫ウェブサイト）
- 日本生命保険株式会社（１９４２）『日本生命保険株式会社五十年史』
- 日本生命保険相互会社（２０１０）『日本生命百二十年史』
- 野村ホールディングス・日本経済新聞社ウェブサイト『man@bow経済』
- 明治生命保険株式会社（１９３３）『明治生命五十年史』
- 明治安田生命保険相互会社（２０１６）『明治安田生命十年史』
- 森莊三郎（１９３１）「我国生保業の統計的調査」『生命保険経営』第３巻第２号
- 矢野恒太記念会（１９５７）『矢野恒太傳』